

チームで取り組む家庭教育支援案プランの実践

1 「案プラン①」 保護者への学びの場の提供

※ **I I K S**（イクス：案町合同家庭教育学級・イキイキ子育てスクール）の開催

親等が家庭で子どもの教育を行う時に必要な心構えや留意点などを学習する機会を提供し、家庭教育の充実を図りながら、子ども達の健やかな成長に資すること、及び学級生自身の向上と学級生同士の親睦を目的としています。



参加者の声
子どもは自分が認められることで他人にも優しくなれる。親に余裕がないと子どもを受け止めることができない。「6秒待つて」実感しました。

2 「案プラン②」 地域の居場所づくり

※ **家庭教育相談窓口**の設置

教育講演会「体罰によらない子育てを広げよう！」

核家族化、ひとり親家族、地域のつながりの希薄化に伴い、家庭教育に関する相談、困りごとについての相談を受ける受け皿です。しつけ、不登校、ゲーム、勉強など様々な課題を抱え込み、孤立化する家庭に対し、一人で抱え込まず、まずは相談を！

3 「案プラン③」 訪問型家庭教育支援＜重点目標＞

※ **アウトリーチ型家庭教育支援**

学びの場や相談に足を運ばない保護者、家庭教育に関する支援が届きにくい家庭への対応支援策です。

① **ターゲット型家庭教育支援**（「点」の支援）

具体的な課題を抱える家庭を訪問の対象とする

② **ダイヤルベルト型家庭教育支援**（「電話型帯」の支援）

対象年齢（新小学校1年生）の家庭には、問題の未然防止、早期発見につながる。就学時健診等での家庭教育アンケートのスクリーニングを経て当該家庭へアプローチ→＜電話・家庭訪問＞。問題はあがるが自覚がない家庭、悩みがあるが相談できない家庭への対応！

取り組みの成果

- 1 チームとして連携して活動
情報共有、学校等からの相談により個別案件への迅速対応
- 2 学びの場の提供
親同士の交流、悩みや疑問を共有しながら学び合い、親として共感
- 3 地域の居場所づくり
顔の見える教育相談、抱え込まず地域とのつながり
- 4 訪問型家庭教育支援
ターゲット型家庭教育支援
：見守り声かけ、切れ目のない支援
ダイヤルベルト型家庭教育支援
：積極的な声かけ、学校不適應の未然防止

今後の展望

- 幼稚園や保健福祉部局との連携
⇒ 就学前児家庭の支援
⇒ 幼児教育との連携
- アウトリーチ型家庭支援の推進
⇒ 外国人家庭、ひとり親家庭、義務教育終了後家庭への対応
⇒ ターゲット型・ベルト型家庭教育支援の充実
⇒ SC、SSWとの連携
- ICTの活用
⇒ 積極的な情報提供、双方向での情報のやり取り・相談

十日町市家庭教育支援チーム なかよしランド

「なかよしランド」は未就園児の親子を対象に、手遊びやリズム遊び、体を思いっきり動かすなど、親子でたっぷりと触れ合う活動を通して、親子の関係性を築く手助けをしています。普段の生活やおもちゃ遊びでは体験できない親子のふれあい、就園前の様々な体験、季節の行事や人との関わりを大切に活動をしています。

設立当初から、広い場所で、大人も子どもも伸び伸びと動き回り、ふれあいを楽しむことを大きな目的としてきました。育児に追われる日々から少しでも心と体を解放してほしい、そんな願いの中、遊び歌や体操などを織り交ぜながら支援活動を行っています。

<ねらい>

- ◎親子のふれあいの方法を実践を通して身に付ける
- ◎子育て喜びや悩みを分かち合える場作りをすすめる

入園前の貴重な時間を親と子が共に過ごし、共に育つ喜びを感じていただきたいと願っています。



活動開始年月

平成元（1989）年4月

活動拠点と範囲

新潟県十日町市
人口：50,238人（令和3月11月末現在）

チームメンバー

6人
（子育て経験者3人、元保育士2人、
元幼稚園教諭1人）

その他、スポーツインストラクターや、音楽講師など専門の講師をお招きし、運動遊びや音楽会、リトミックなどを行っています。

活動対象

未就園児とその保護者

活動場所

児童厚生施設、社会教育施設、福祉施設 ほか



■アピールポイント!!

「毎週」と「繰り返し」

なかよしランドは、8月を除く毎週1回、年間を通じて活動をしています。
“はじまりの行進”、“親子でふれあう遊び歌体操”、“かけっこ”、…これらは毎回必ず行う、なかよしランドの代表的な遊びです。
お子さんの変化を感じていただけるように毎回繰り返し行っています。

手遊び・
リズム遊び



歌・
踊り・体操



パネシアター・
読み聞かせ



工作



■その他の活動内容

お誕生日会

運動会

バス遠足

電車遠足

なかよしのなべ

リトミック

水遊び

端午の節句

たなばた

ハロウィン

クリスマス

お正月

節分

ひなまつり

■参加者の声■

- * 県外から移住し、知り合いも少ない中での子育てで不安もたくさんありました。スタッフの方々が声を掛けてくれたり、ふとした瞬間に子育てのアドバイスを頂けたりして、一緒に子どもの成長を見守ってもらえているようでうれしかったです。
- * 初めは抱っこばかりで、なかなか一緒に参加できませんでしたが、先輩ママから「うちもそうだったよ～」と声をかけてもらい、気長に参加することにしました。そのうち自分から走ったり、歌や手遊びを真似したり…と生き生きと活動するようになりました。
- * 遊び歌の中で「大好き～♡」とハグをすると、息子も私にもこにこ顔です。教えてもらった歌を我が家は家族みんなで楽しんでいます。

■活動の成果と今後の展望

- * 参加者同士が顔を合わせていく中で、子ども同士・保護者同士の交流が生まれ、子ども達は様々な経験を通して付き合い方を学び、保護者は子育てについて語り合う仲間ができ、友達の輪が広がっています。
- * 乳幼児（弟妹）連れで参加する親子がいる時は、支援スタッフが下の子の面倒をみることで、その時間は思いっきり親に甘え、一緒に遊ぶことができ、親と子のふれあう時間をつくる一助となっています。
- * 今後は、専門分野の講師を招く機会を増やしたり、保育を志す学生から一部を担ってもらい、子どもとの関わり方やコミュニケーションを学ぶ仕組みづくりをしたいと考えています。



野々市市家庭教育サポーター

野々市市家庭教育サポーターは、家庭教育に関する地域の支援体制として設立され、市内全域で活動をしている団体です。

子育ては楽しいことや嬉しいこともあるけれど、時にはつらかったり、大変だったり、子どもとの関わり方に迷ったりする事もあります。そんなときに、子育て世代の身近で気軽な相談相手として、気楽におしゃべりしながら、日ごろの悩みや子育てのストレスを少しでも解消してもらえればと活動しています。

2か月に1回定例会を実施し、情報共有や研修を行うことで、相談活動におけるスキルアップを目指しています。また、隔年で家庭教育サポーター養成講座を行い、サポーターの安定的な確保にも努めており、今年度は第7期生の養成講座を実施しております。

また、家庭教育サポーターから派生して、Webサイトで子育て情報発信の運営をしております。

メンバーの年齢は30～70代と幅広いですが、子育て世帯からの認知度も高く、「自分の住むまちには、子育てのことで頼れる人がいるんだ!」と認めていただけるような存在を目指して日々活動をしています。

活動の体制

- ◇活動開始年月 : 2007年4月
- ◇活動拠点 : 石川県野々市市 (人口 57,238人※令和2年国勢調査より)
- ◇活動範囲 : 市内全域
- ◇メンバー : 21名 (家庭教育サポーター養成講座修了者)



活動の対象

- 子どもを持つ保護者・家庭

主な活動場所

- 保育所
- こども園



特色のある取組

〈なかよしの日 相談活動〉

市内保育園の園開放事業「なかよしの日」(各園年5回)に担当サポーター2、3名が出向き、相談活動を行っています。今年度はコロナ禍の中、安全対策として市内保育園 17 園のうち 12 園の園開放事業で相談活動を行っています。2007 年4月にはじまり、今年で 15 年目になる活動であるため、子育て世代の市民からの認知度は高くなっています。

未就園児親子が参加される園開放事業に直接サポーターが出向くことで、気軽に話しながら相談できる環境をつくっています。リピーターの親子や様々な保育園に遊びに来ている親子もあり、顔見知りになることで話しやすい関係性を築いています。また、園からも、保育士の負担が減り助かっていると評価されています。

その他の活動内容

〈なかよし子育て大集合！〉

年に一度、親子ふれあい事業「なかよし子育て大集合！」というイベントを開催し、親子で遊ぶことができるコーナーや、事前に市民に呼びかけて集めた子育て不用品を無料で次の世帯にお渡しするコーナー等を設け、家庭教育の支援を行っています。

10 年以上にわたり実施しており、市民からのイベントの認知度も高くなっています。そのなかでも、子育て用品の無償リサイクルは人気が高くなっています。地域全体で循環させる仕組みができており、子育てを終えた家庭や、子育て中の家庭から毎年たくさんの物品が集まります。遊び場の提供だけでなく、子育て家庭を支援するイベントとなっています。

〈家庭教育指針「ののいち元気家族三か条」啓発〉

家庭教育指針の啓発を行うため、過去作成した DVD や紙芝居を用いて啓発活動をしており、市民に向けて家庭教育の大切さを伝えています。



成果と今後の展望

地域の現状を常に把握できるように情報共有や勉強を重ね、ニーズに合わせた活動ができています。また、地域を巻き込んだ活動も実施しているため、子育て世帯以外の市民からの認知度も高く、サポーター活動に興味を持っていただいています。

今後の展望としては、より一層、市民のニーズに合わせた活動を行っていきたいと考えています。

アピールポイント！！～赤ちゃん抱っこ隊～

「赤ちゃん抱っこ隊」として、市内全中学校で実施されている、「命のぬくもり体験学習・赤ちゃん抱っこ体験」のサポートを行っている。この活動は、平成30年から現在に至るまで、越前市健康増進課委託事業となっており、学校や行政と連携しながら、子どもたちの心の成長のために活動している。

赤ちゃん抱っこ隊としての主な活動内容は、継続できる体験学習とするために、赤ちゃん抱っこ体験に参加してもらうことができる親子の募集、企業への協力依頼、当日体験する生徒と親子の橋渡し役、母親との信頼性の構築、母親が育児に自信を持つ機会の提供等、赤ちゃんを中心に誰もが笑顔になる場のサポートを行っている。



参加者（支援を受けた方）の声・感想
・「赤ちゃんの可愛さや、親が子どもを大切に思う気持ちを中学生で体験できるので良いと思います。」(参加母)
・「PTAの方々に育児の先輩としてのお話を聞くことができ、本当に良かった。」(参加母)
・「赤ちゃんを抱っこした時、命の重さを感じました。何もかも私より小さいけれど、ちゃんと生きているんだなあと思いました。」(生徒)

その他の活動内容

1. 相談対応

「ちょっと聞いて～」と気軽に相談できる相手として活動。

深刻な内容は専門機関と連携して対応する。

平成31年4月より、LINEでも相談受付、対応。

2. 活動情報発信

「オレサボ通信」を発行し、活動情報や学習会の案内、関係機関からの情報などを知らせる。

3. 年間スケジュールの作成・配付

活動拠点の地区にある子育て関係機関の年間スケジュールを作成し、各機関や地区の小中学校の子ども会に配付する。

4. 子育てサロン「オレンジサロン」の定期開催

0歳～未就学児を持つ親・祖父母の交流の場として開催。

小さな子を安心して遊ばせることのできる場所を提供し、子育て情報の提供や育児相談対応をする。

年1回程度、子育てに関する講座も開催する。

5. 地区内小中学校との連絡会の定期開催

6. 関係機関(地区や市の青少年健全育成活動も含む)の子育て支援活動の手伝い

講演会『子どもとお母さんのための薬の話』
終了後の参加者の声・感想

・「薬剤師さんの話はなかなか聞けないので、とても参考になりました。」
・「妊娠中・授乳期の服薬についての話が聞けてよかった。」

成果と今後の展望

成果

- ・LINEでの相談受付、対応を始めてから、顔見知りではない人からの相談が増えた。
- ・気になる母子や家庭について、越前市健康増進課・子ども福祉課との連携が深まった。
- ・アウトリーチ型家庭教育支援(相談者宅で、家事分担・お手伝いの指導、情報提供、相談対応)をする機会があった。
- ・活動初期のサロンに参加していた方の中で、メンバー加入希望者がいる。

今後の展望

- ・悩みを出しやすいツールを活用して孤立感を少なくする。
- ・母親同士のつながりが持てるように働きかける。
- ・より地域に密着した支援活動にするため、他地区でも新たな支援チームが発足できるよう、養成講座の実施など関係機関に働きかける。

海津市家庭教育推進協議会

チーム・活動の紹介・活動の体制

子育てに関する多様なニーズに見合う支援活動を展開するために、支援方法の協議及び関係機関との連絡調整を図る

◇構成メンバー

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
人権擁護委員	教育委員会教育委員	保育協会長	主任児童委員	青少年育成推進員	小中学校校長会長	子ども会育成連絡協議会	PTA連合会	子育て応援隊講座代表	社会福祉協議会	適応指導教室担当	教育相談担当	健康課 保健指導係

◇活動開始年月：2007年5月

◇活動拠点：岐阜県海津市

◇活動範囲：市内全域

人口 33,012人

(令和3年12月1日現在)



海津市にこにこ子育て支援事業の推進

テーマ：あたりまえのことができる家庭教育支援

～基本的な生活習慣を整え、思いやりの心を大切にする家庭に～

「あ」 あったかい言葉をかけあう

【あったかい絆宣言 ～海津市はみんな家族～】

「た」 時間 (Time) を守ろう

「い」 読書 (Reading) をしよう

「ま」 マナーを守ろう (善い悪いの判断)

「え」 笑顔でほめ合い、思いやろう



活動の対象

妊婦とその家族

乳幼児期

小学生

中学生

高校生以上

の子供を持つ保護者・家庭

その他 ()

活動場所

幼稚園

保育所

小学校

中学校

高等学校

社会教育施設

福祉施設

保健センター等

企業

家庭 (訪問等)

オンライン

その他 ()

活動内容

海津市家庭教育推進協議会

「にこにこ子育て通信」など

<p>①子育て相談 にこにこ子育て 相談チーム (15人)</p> <p>相談内容により関係機関・部署と連携 対面、電話、メール、訪問相談に対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談チーム会 ・ケース会議 ・専門担当連携会議 	<p>②応援隊講座 にこにこ子育て 応援隊チーム (8団体 69人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応援隊講座実務者会 ・各団体による講座、学習会、交流会 	<p>③三世代交流 にこにこ子育て 地区チーム (市内全小学校区10校区を拠点に14ブロック)</p> <p>社会福祉協議会と連携し、各地区役員で構成 (自治会長、青少年育成推進員、子ども会育成会長、子ども会長、老人クラブ会長、民生児童委員、母子保健推進員、福祉推進員等)</p>	<p>④家庭教育学級の工夫改善のための研修会</p> <p>家庭教育学級長等、園、小中学校のPTA役員と園長、教頭等、担当職員(25学級)</p> <p>リーダー会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者説明会 ・担当者会 ・担当者交流会 	<p>⑤子育て・親育ち講座 (全小学校10校)</p> <p>就学時健診時に新1年生の全保護者を対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援員や外部講師による子育て講話 	<p>⑥家庭教育講演会(オーブ講座) (年1回、11月)</p> <p>青少年育成市民大会、市PTA連合会と連携</p> <p>青少年問題協議会委員(26人)、市PTA連合会(小中学校13校)のPTA会長、母親委員長等役員)</p>
--	---	---	---	---	---

◇専門相談員による相談窓口と子育て講座・交流会
 *発達に気になる子をもつ家庭のための相談窓口
 *心に不安がある家庭のための相談窓口
 *子どもの基本的な生活習慣や学習習慣に不安をもつ家庭への支援

◇家庭教育支援員によるきめ細かな対応
 (にこにこ子育て相談室)
 *窓口・電話・メール相談、家庭訪問、学校訪問、専門機関同行等、家庭状況の多様化に配慮したサポート(相談、情報提供、指導助)

アピールポイント!! (特色のある取組)

状況に応じた相談対応

相談チームで情報共有・連携

家庭教育支援員
 人権擁護委員
 教育研究所教育相談員
 適応指導教室相談員
 主任児童委員 家庭相談員
 児童発達支援事務所指導員
 母子・父子自立支援員
 子育て支援センター保育士
 警察官 保健師 栄養士
 なのはな講座専門相談員
 小中学校主幹教諭
 発達支援センター相談員

家庭教育支援員の活動

- 1 にこにこ相談室の開設
 - ・来所相談 ・電話、メール相談 ・訪問相談
 - ・不登校の親を支える会
- 2 関係機関との連携
 - ・学校訪問 ・社会福祉課 ・子ども課 ・発達支援センター
 - ・子ども相談センター 等
- 3 学習機会の提供
 - ・家庭教育学級での講演 ・PTA主催の講演会
 - ・就学時健診時の子育て親育ち講座 ・子育て心理学講座
 - ・子育て通信の執筆

相談者の声

何かあったらいける場所があるということで安心しました。

子育て親育ち講座参加者の感想

自分の子育ては間違いだらけです。「子どもを支配する親」であり、子どもを否定し、やる気をなくす言葉ばかりで、毎日子どもと関わっていました。今日の講話を聴いて、私自身が変わらなければと思い知らされました。子どものために、私が親として子どもとの関わり方を変えていきたいです。

成果と今後の展望

- アウトリーチ支援をチームで、それぞれの立場で訪問することを通して、保護者の孤立感の軽減や、気軽に相談できる安心感につながっている。
- 就学時健診時を利用して行う子育て親育ち講座には、対象者のほぼ全員が参加していただき、「親自身の自分育て」になるとして毎年とても好評な講座となっている。
- △在宅取組やリモート支援など、多くの保護者が活用できるよう工夫していく。



SmileyDream
ホームページ



特定非営利活動法人

知多地区家庭教育支援チーム

SmileyDream

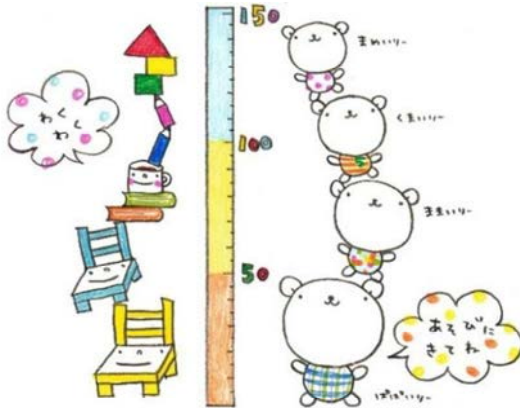


ネグレクトによる児童虐待死亡事件がきっかけで活動が始まりました

2000年12月、愛知県武豊町で3歳の女の子が段ボールの中で餓死をした児童虐待事件が起きました。「児童虐待防止法」が施行されてからわずか1か月余りでのことでした。

「家では放置 外では笑顔」という新聞の見出しに目を奪われました。当時、子どもを病気で亡くし、家事や育児もままならなかった私（現理事長）も外では笑顔でした。子育ての辛さは一步踏み込まないと見えない。楽しく子育てしているように見えても、しんどさを抱えているママはいるはず。「私もそうだよ」の一言で少し気持ちが楽になる。生まれてきた子どもの命を守るために、私にも何かできることがあるかもしれない。

そんな想いをインターネットで発信したところ「どんな姿になっても生きてほしい」という願いが叶わず、子どもを亡くしたママとつながることができました。そして、同じ時期に出産したママ同士が助け合える場所を作ろうと「ママサークルSmileyDream」が生まれました。



チーム・活動の体制

- 活動開始年月 平成13(2001)年7月 平成21(2009)年NPO法人化
- 活動拠点 愛知県知多郡武豊町(人口約43,000人/年間出生数約300人)
- 活動範囲 知多地区全域(人口約63万人)
- メンバー 19人(1名育休中)

子育てネットワーカー、愛知県子育て支援員
保健師、看護師、助産師、保育士、弁護士、行政書士
社会福祉士、大学准教授、武豊町担当課職員

連携機関 行政担当課、教育委員会、大学、地域のNPO団体、企業 など

活動の対象

- 妊婦とその家族
 - 乳幼児期
 - 小学生
 - 中学生
 - 高校生以上
- の子どもを持つ
保護者・家庭

活動場所

- 保育所
- 認定こども園
- 小学校
- 中学校
- 家庭（訪問等）
- 社会教育施設
- 福祉施設
- 保健センター等
- 企業
- オンライン



少子化に負けない子育てにやさしい街づくり！

少子化の加速、女性の社会参画推進により、子育て現役世代の地域参画が脆弱になることを防ぐため、ICTの活用や交流の場づくりなど様々な企画をしています。特に市町を超えた広域活動や行政や企業との協働事業の推進に力を入れています。

ICTを活用した活動

- ◆「ハイスペックママサポーター養成講座」ではZoomを利用し、1年間にわたって子育て支援者の養成講座を開催し、子育て支援者のスキルアップと活動の継続サポートを実施。
- ◆LINE@（LINE公式アカウント）を活用したサークル運営として、多胎児ママ、新米ママ、不登校児保護者、家庭訪問支援利用者、各種講座受講者等の交流や情報交換のサポート。
- ◆Facebookページ、Instagram、Twitter、LINEなど多くのSNSツールを利用して情報発信し、適切な支援につながりやすくする。



引っ越す前から相談に乗ってくれて安心して新しい場所で子育てを始めることができました！（3児のママ）

アウトリーチ家庭訪問活動

愛知県「家庭訪問型子育て家庭寄り添い支援モデル事業」（ホームスタート事業）として、訪問ボランティアの養成を行い、自宅への訪問や買い物・散歩・保育園送迎の同行など、保護者の子育てに対するエンパワメント力向上のサポートを行う。

- *日本福祉大学とのタイアップ
- *県内に本事業を普及するため、ホームスタート愛知県協議会を設立
- *外国籍の子育てママの居場所づくり



海外にいた経験を活かして人の役に立つ活動ができるなんてとても嬉しいです！私も楽しんでいます。（ボランティア）

家庭のエンパワメント力UP

家庭から地域のエンパワメント力UPを目的とした講座を開催。家族で手形アート、夫婦で家事分担、ハンドタッチケア、パパ座談会、パパ&ベビーリトミック等を企画し、のべ3000名以上が参加し、受講後も交流が続いています。

武豊町親子リフレッシュ講座



← 東海市 まちづくり協働推進事業



それぞれの望む生き方を実現

2001年から毎年「Mamaふえすた」を開催。子育て中だからあきらめるという発想から、子育て中だからできることへポジティブ変換して、みんなで助け合って楽しむイベントを企画運営しています。



2003年



2017年

成果と今後の展望

現役ママの「恩送り」で地域の未来を変える！

現役子育て世代が次の世代のために、県や市町の子育てや家庭教育等に関する各種会議、審議会、PTA役員などに参画をしたり、子育て支援団体を設立する現役ママを多数サポートしてきました。また、ママサークル参加者が運営スタッフに移行したり、支援団体のスタッフとして活躍しています。今後も社会参画へのステップとなる活動を継続し、次世代に感謝を送る「恩送り」が根付いた、笑顔いっぱいの地域づくりを続けていきます！



支援が必要な子どもとの関わりを基盤に据え、その信頼関係の上に立ったアウトリーチ型の保護者・家庭教育支援

- 支援が必要な児童の授業への入り込み支援、寄り添いにより、まず第一に子どもとの信頼関係を構築。その上での情報提供、相談対応、保護者に寄り添うアウトリーチ型の家庭教育支援としての家庭訪問により保護者との信頼関係の醸成に努める。ステップを踏んだ地道な取組の積み上げこそ大切。
- 支援対象児童・家庭への年間150回を超える家庭訪問実績
- 県派遣のSSWと連携し「ポレポレ子育て応援講座」を連続開催。支援対象家庭の参加率も非常に高く、日々の着実な関係作りが実績となって表れている。
- 広報誌「ポレポレ通信」を発行して家庭教育、保護者支援につなげる情報発信
 - ※「ポレポレ」とはスワヒリ語で「ゆっくりゆっくり」という意味である。



ポレポレ子育て応援講座



ランらん通学



ほっこりや

その他の活動内容

- 家庭教育支援員の発起と保護者の協力で放課後スペース「ほっこりや」（地域での学習支援・居場所づくり）を開設。地域住民にも認知され、地域サークルの陶芸や将棋などで子どもたちと地域住民とのつながりもでき、地域ぐるみで子どもを育む環境づくりが進んだ。また、活動を通して世代間交流も動き出した。
- 「ランらん通学」（就学前親子通学体験）をまちづくり協議会と連携して開催。就学前の親子と家庭教育支援員との出会いは、保護者と就学前の児童の安心感へとつながり、入学後の円滑な相談活動の一助となっている。

成果と今後の展望

- 2名の家庭教育支援員（元主任児童委員・学童指導員）を核に、学校も校長・教頭・教育相談担当・担任をひとつのチームにした「みくもっこ支援委員会」が確立している。授業への入り込み支援をスタートにしていることから、担任との関わりが密であり、支援委員会でのアセスメントが進むようになった。この中での報告と協議を受けて、迅速に関係行政課や相談機関との連携を図っている。
- 子育て応援講座は地域支援者である民生委員・児童委員や主任児童委員、まちづくり協議会委員の参加もあり、家庭教育支援に対する理解が地域にも根付き広がってきている。
- 現在の支援員は長年月の実績の上に現在の成果があるが、支援者の輪を広げるためにも継承を意識した体制の拡充が期待される。特に中学校との連携が必須。



笠置地域学校協働本部 家庭教育支援チーム (ほっとサロン)



保育所を拠点に、保健師や保育士、小学校スクールカウンセラーの臨床心理士等と連携し、地域の保護者のつながりや絆、子育て支援を目的に活動してきました。「地域学校協働活動」「京のまなび教室（放課後子供教室）」と併せて、地元に着した活動を続けています。

チーム・活動の体制

◇活動開始年月：2008年4月

◇活動拠点：京都府相楽郡笠置町

◇活動範囲：町内全域（人口約1,200人）

◇チームのメンバー：8人

（コーディネーター スクールカウンセラー 保育所長

役場保健師 小学校教頭 地域住民3人※うち2人は元保育士）

◇連携機関等：笠置保育所、笠置小学校、笠置町保健福祉課



活動の対象

妊婦とその家族

乳幼児期

小学生

中学生

高校生以上

の子供を持つ保護者・家庭

その他（ ）

活動場所

幼稚園

保育所

小学校

中学校

高等学校

社会教育施設

福祉施設

保健センター等

企業

家庭（訪問等）

オンライン

その他（ ）

地域に密着した活動

ほっとサロン



毎月3回、0歳から12歳（小学校卒業）までの保護者を対象にサロンを開き、相談活動などを行っています。

コーディネーターによる家庭訪問



町内の保育所、小学校を通して各家庭へ毎月の案内を配付するとともに、町内の回覧文書で啓発をしています。また、対象世帯にはコーディネーターが家庭訪問を行い、啓発と参加を呼びかけ、信頼関係を築いています。

参加者（支援を受けた方）の声・感想

家で一人で子育てしていて疲れてしまった時に、ほっとサロンがあるとスタッフさんに子どもと遊んでもらっている間、相談を聞いてもらったり、同じ参加者さんとお茶を飲みながら気楽に話せる時間となっていて、いつもリラックスして帰ります。

その他の活動内容

子育て講座



年に2回、保育所や小学校と連携し、開催しています。近年では、「コロナに負けない免疫を上げる姿勢」や「子育ては親育て」というテーマで行いました。

参加者（支援を受けた方）の声・感想

子育てについて、講演を聴いたり学習する機会って自分では持つことがないので、小学校の授業参観と連携してやってもらえることで、参加もしやすくとても良い機会になっています。

参加者（支援を受けた方）の声・感想

ほっとサロンでは、こんなことをやってみたいと希望を言ってみると、実現することが多くあって楽しく参加しています。イベントも企画してくれるので、参加者と和気あいあいと楽しんでいます。

サロンでのイベント



「ほっとサロン」では、相談活動だけでなく、エクササイズやヨガ、クッキング教室、クリスマス会、高校生との交流など、様々なイベントを行っています。

成果と今後の展望

【成果】

2008年から10年以上に渡って、親同士のつながりの場を運営してきました。少子高齢化が進み、子育て世代が少ない環境の中、親同士がつながりをもつことができたり、ゆっくり話をしたり、聞いたりすることができる「ほっと」できる空間・時間となっています。

【今後の展望】

笠置町の参加者の多くが高校生との交流など他の町村との親同士のつながりを希望されているので、町を越えた近隣の子育てサークルとの交流を進めていきたい。

少子高齢化が進む中で、おじいちゃんやおばあちゃんに子どもの声を届けて町を活性化できるように、高齢者や地域住民と子育て世代の参加型の企画を進めていきたい。

寝屋川市家庭教育サポートチーム



大阪府寝屋川市教育委員会事務局 青少年課 072-813-0075

背景

- ・ 核家族化やひとり親など、家族形態の変容による、家庭生活に余裕のない家庭
- ・ 子育ての悩みや不安を抱えて孤立する家庭



事業目的

地域の人材を活用した家庭教育サポーターを、24小学校に派遣し、学校と連携して、「家庭訪問」「相談活動」によるきめ細やかな家庭教育支援を実施することで保護者の悩みを軽減し、子ども・保護者・学校との良好な関係づくりを行い、家庭の健全化を目指す。



活動開始年

平成18年～

活動拠点

市内24小学校

人口

229,099人(令和3年12月現在)

活動体制

- ・ 家庭教育アドバイザー(SSW) 1名
- ・ 家庭教育サポーター 24名



(子育てサポーター3名、民生委員・児童委員1名、元小・中学校等教員6名、保育士2名、公認心理師1名、その他11名)

活動の対象

- 妊婦とその家族 乳幼児期 小学生 の子どもを持つ保護者・家庭
 中学生 高校生以上の子供を持つ保護者・家庭 その他 ()

活動場所

- 幼稚園 保育所 小学校 中学校 高等学校
 社会教育施設 福祉施設 保健センター等 企業
 家庭(訪問等) オンライン その他 ()

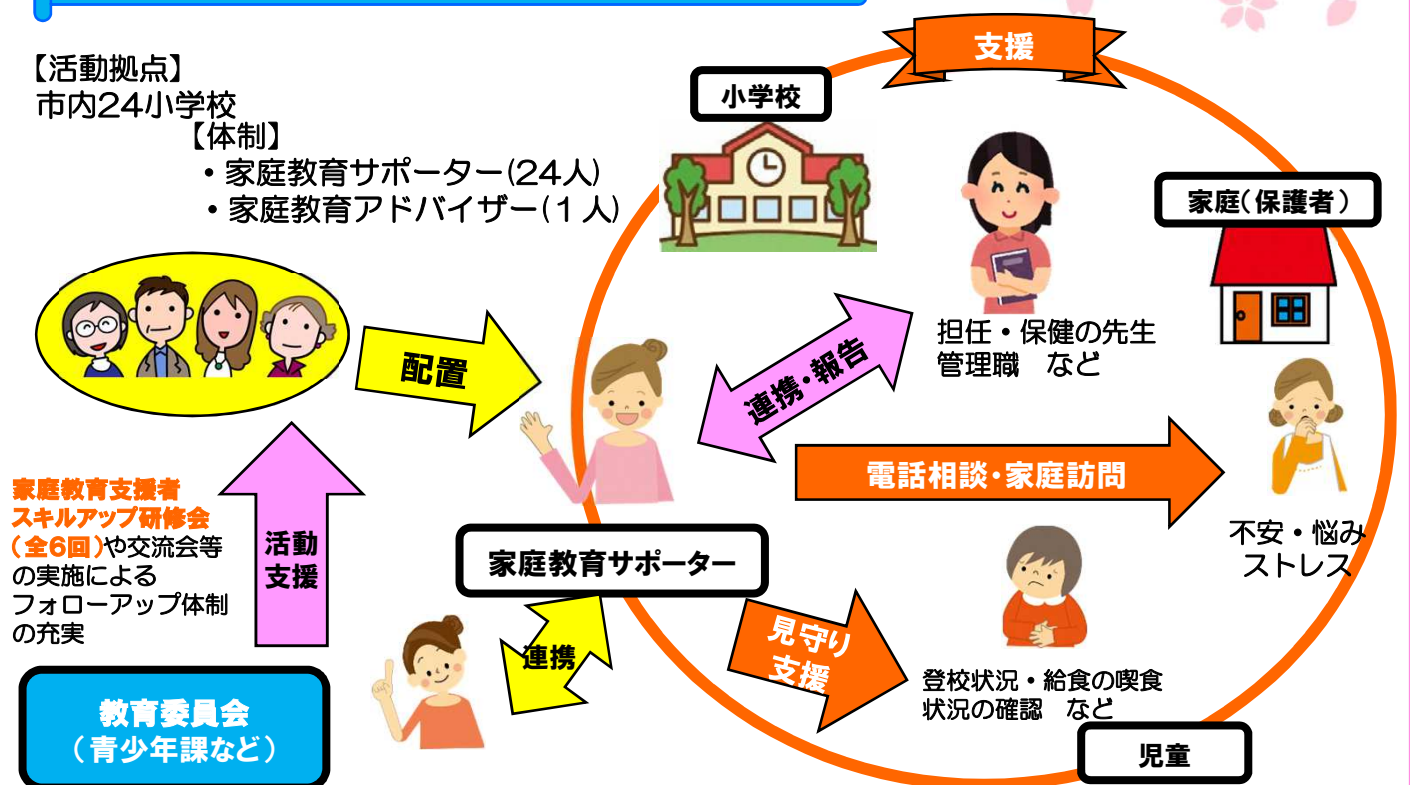
※ 親学習講座開催や子育てについての相談活動を行っている。

活動実績

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
家庭訪問回数	3,881回	3,094回	2,390回
相談件数	3,947回	4,191回	4,166回
児童対応数	10,072回	9,447回	8,922回

平成30年度～
夏季休業中に小学1年生
の全戸訪問等による相談
支援の実施

寝屋川市家庭教育サポートチーム活動の流れ



青少年支援員・・・サポーターへの助言や支援を行う。
(青少年課配置) また、関係機関との連携が必要なケースについては、
必要な支援につながるよう、関係機関(福祉部局等)につなぐ

フォローアップ体制の整備

① 家庭教育支援者スキルアップ講習会

全6回講座を開催し、寝屋川市の取組状況や保護者とのコミュニケーション方法等について学習する機会を提供することで、サポーターのスキルアップを図る。
新たに家庭教育サポーターとして活動を希望する地域人材の発掘を実施。

② 家庭教育サポーターの交流会(チームミーティング)

月に2回程度、活動の振り返りなどを実施。
→ 学び合い、支え合い、育ち合いの場

③ 家庭教育アドバイザーによる事例検討会

年に1回程度、具体的事例(架空)による検討会を実施し、ベテランと新人のサポーターのスキルアップにつなげる。

④ 日々の活動の相談

教育委員会の青少年支援員に、随時相談できる体制を整備



成果と今後の展望

小学校を拠点とした家庭教育サポーターの日々のきめ細やかな児童対応、家庭訪問、保護者からの相談対応等により、児童や保護者との信頼関係が構築され、児童の登校状況の改善や保護者の悩みの軽減につながった。

今後も学校や関係機関と連携して家庭の教育力の向上につながる支援を継続する。

私たちは、子育て家族と共に歩みます！

広陵町家庭教育支援チーム



つながる

継続

共に

発信



子どもは、「地域の宝」です。たくさんの人の愛情を受けて、健やかに育ててほしいとひとえに願います。私たち、「特定非営利活動法人(NPO法人)家族・子育てを応援する会」は、乳幼児の子育て家族を応援し、みんなで子どもを育てる地域を目指して、多職種のスタッフが活動しています。



本会のロゴマークは、本会の活動拠点の広陵町の木である「モクセイ」の花びらが元になっています。

活動拠点を置く市町村

広陵町：人口 35,148 人
(令和3年11月末現在)

活動範囲

奈良県北葛城郡広陵町全域

活動開始年月

平成28年3月

構成員

11人

後援

広陵町・広陵町教育委員会

活動形態

- 保護者への学びの場の提供
- 地域の居場所づくり
- その他(個別相談)

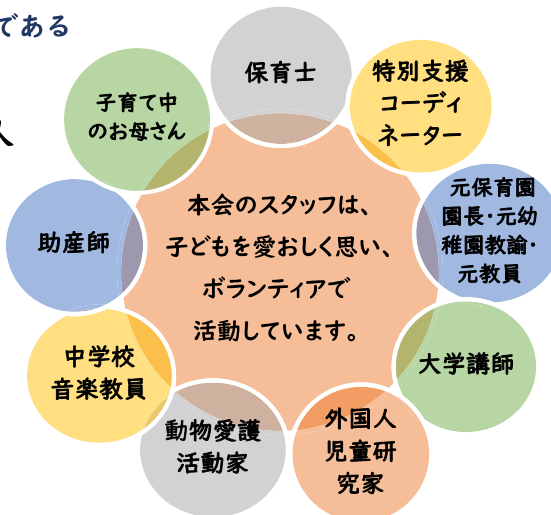
活動対象

- 乳幼児を持つ保護者に対する活動を実施

活動の目的・趣旨

地域の皆さんと共に、安心して子育てができるまちづくりを目指します

- 居場所づくり・・・乳幼児の親がほっとできる親子広場を開催します
- 地域への発信・・・地域に子育てを応援する人を増やします
- 個別相談・・・個々の家族に寄り添い共に考えます
- 連携・ネットワーク・・・支援する人たちと連携し、よりよい支援をします



Facebookで、随時本会の情報を紹介しています
連絡先：特定非営利活動法人家族・子育てを応援する会事務局
✉ koryo.kosodate@gmail.com



主な活動内容

子育ておしゃべり会 乳幼児の親子広場

楽しいイベントや講座、親同士のおしゃべりの交流、屋内・屋外でいろいろな広場を開催しています。子どもコーナーでは、木のおもちゃなどで子どもたちが遊びます。



歴史豊かな広陵町の百済寺三重塔前の公園で、春と秋には外遊びを楽しみます。

個別相談

専門職のスタッフが、電話やメール、対面で相談に乗ります。



ゼロのわくわくプログラム 0歳児の親子広場

不安が多い0歳児の子育て時期の家族に寄り添い、学んだり交流できたりするプログラムを実施しています。



Zoomでほっと (hot) なおしゃべり会

乳幼児の親子広場

どこからでも参加でき、みんなで気持ちをシェアします。子育て中のお母さん、町長さんや行政の方々と、「子育てしやすいまち」について一緒に考える場もありました。

親子広場やイベント等は、町内外のどこからでも参加していただけます。



おしゃべり通信

活動の様子や親の声を地域に発信します。

講演会・展示会 住民参加の場

「団士郎家族漫画展・講演会」には、毎年地域から多世代の住民が参加し、「子ども・子育て・家族」について考える場になっています。



《参加者の声》知らない土地に来て不安だった時、人と出会わせてくださって、「いつでも連絡してね、頼ってね」って言ってくださる、この会に本当に感謝しています。

いつも子育て中の私たちに寄り添ってくださり、リラックスできる時間、そしてためになる情報をくださり、本当にありがとうございます。この会の活動がずっと続くことを願っています。（「ゼロのわくわくプログラム」、「子育ておしゃべり会」、「Zoomでほっと (hot) なおしゃべり会」に参加されてきたお母さん）

成果

社会の状況や参加者の声・要望を基に、「どのように家族を支援すればよいか」についてスタッフと話し合いを重ねてきました。コロナ禍では、電話相談やお便りのやり取り、Facebookでの情報提供、Zoomの広場等の支援を続けました。対面式の広場再開後は、感染対策を徹底して開催しました。このような取り組みの中で活動内容が充実し、参加が広がりました。地域住民や行政にも子育て家族の声を届け、活動への理解や協力を得ることが多くなってきています。



今後の展望

子育て家族にやさしい社会をめざして、安定した経済基盤の構築を進め、家族の思いに寄り添い、地域住民や行政との連携を強めながら、本会の活動を発展させていきたいです。

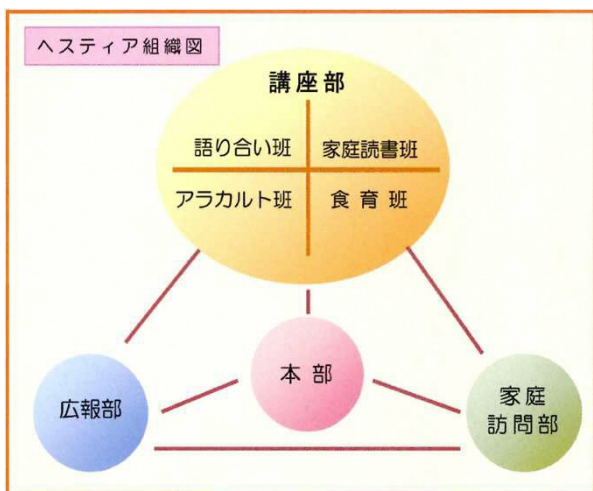
橋本市家庭教育支援チーム「ヘスティア」

●活動の目的

子どもが自立した大人に成長できるように、保護者が子育ての不安や悩みを抱えたまま孤立することが無いように学校や行政などの各関係機関と連携しながら笑顔の子育てを応援する活動を行っている。学校や園とも連携し、保護者同士や保護者と先生のつながり作りも行う等、教育と福祉、地域をつなぐハブ的存在として活動している。



●チーム・活動の体制



◇活動開始年月：2008年4月

◇活動拠点：和歌山県橋本市
(人口：約61,000人)

◇活動範囲：市内全域を対象に活動

◇組織：本部・講座部・広報部・家庭訪問部で構成

◇チームのメンバー：33人

県教育委員、元小学校講師、民生委員、児童委員、子育て経験者等、多様な背景を持つ地域住民が活動を行っています。

◇連携機関等：福祉部局、教育委員会、市内各園・小学校、公民館など

●活動の対象

妊婦とその家族

乳幼児期 小学生 中学生 高校生以上

の子供を持つ保護者・家庭

その他 ()

●活動場所

幼稚園 保育所 小学校 中学校 高等学校
 社会教育施設 福祉施設 保健センター等 企業
 家庭(訪問等) オンライン その他()



●特色のある取組

本部を中心として講座部・広報部・家庭訪問部に分かれて活動しており、チーム員がそれぞれ自分の得意分野を活かしながら、幅広い支援に取り組んでいる。

◇就学時健診時ワークショップ

2008年の設立当初から、市内ほぼすべての小学校の就学時健康診断の場に出向き、保護者向けにつながり作りや不安解消を目的としたワークショップを行っており、保護者、小学校の中にも活動が定着している。

◇ブックスタート

4～5か月児健康診断の場で絵本の読み聞かせ・プレゼントを行っている。子育ての早い時期に保護者とヘステアがつながる機会となっている。

◇家庭訪問

家庭に訪問し個別に悩みを聞くケースでは地域住民の一人として、長年にわたり継続して関わる事が出来る。訪問を終了した保護者も講座に参加した際に話を聞くことが出来たり、講座の参加者が家庭訪問に繋がるケースもあり、活動が相互に結びついた支援を行っている。



就学時健診時
ワークショップ



ブックスタート



活動の様子は
こちらからご覧
いただけます

●その他の活動

◇講座

子育てサークルや地区公民館、学校や幼稚園等から依頼を受けて講座を行っているほか、ヘステアが主催する講座を行っている。手作りや語り合い、読書や食育等、様々なニーズに対応する多種多様な講座を展開している。

◇プチ体験講座

短時間で手作りの体験が出来るプチ講座を行っている。保健福祉センターに来た方が予約不要で気軽に参加できる講座を行うことで、保護者にとってヘステアが身近な存在として感じてもらうための機会を作っている。

◇家庭教育情報誌「げんきっこfamily」

年4回、各号5800部発行の情報誌を作成し、市内小学校や園、公共施設等を通じて子育て世代に配布している。子育てに関連した特集記事の他、おすすめの本やイベント、かんたんレシピ等の情報を提供している。

◇パネル展示

市内でのイベントや保健福祉センターのロビーでパネル展示を行う他、体験講座も併せて行うことで活動の周知を行っている。

●成果と今後の展望

- ・支援家庭が子どもに対しより良い関わり方が出来るようになったり、保護者が感じていた孤独感を解消することが出来た等の成果が見られた。また、講座参加者がリラックスした雰囲気の中で、講座に参加し語り合うことで、子育ての悩みの解消に繋がる等の効果が見られた。
- ・地域全体で子育てを見守る地域力を構築するために、地区公民館での講座も増設している。
- ・講座へ参加してくれていた保護者が支援チームに加わってくれる等、地域の中で支援の循環が出来つつある。
- ・これまでは講座主体の活動であったが、共働き世帯の増加やコロナウイルス感染症等の影響により講座に参加できる保護者が減少しているため、アウトリーチによる支援を拡大し、ブックスタート事業と連動した家庭訪問を検討している。

米子市家庭教育支援チーム とことこ・タムタム

私たち「米子市家庭教育支援チームとことこ・タムタム」は、米子市の子育て世代（特に、乳幼児）を対象とした事業の開催や子育てに関する情報を収集・交換することで、米子市の子どもたちの健やかな育ちを支援することを目的に活動しています。



チーム・活動の体制

- ◇活動開始年月：2008年
- ◇活動拠点：鳥取県米子市：人口 146,852人（令和3年11月30日現在）
- ◇活動範囲：市内全域
- ◇チームのメンバー：12人
（元保育士、元幼稚園教諭、社会教育委員、子育て・家庭教育支援に係る各行政機関職員、民生児童委員、図書館司書、家庭教育支援活動を行う市民）
- ◇連携機関等：保育所、幼稚園、公民館、子育て支援センター、児童文化センター、市役所関係各課 等

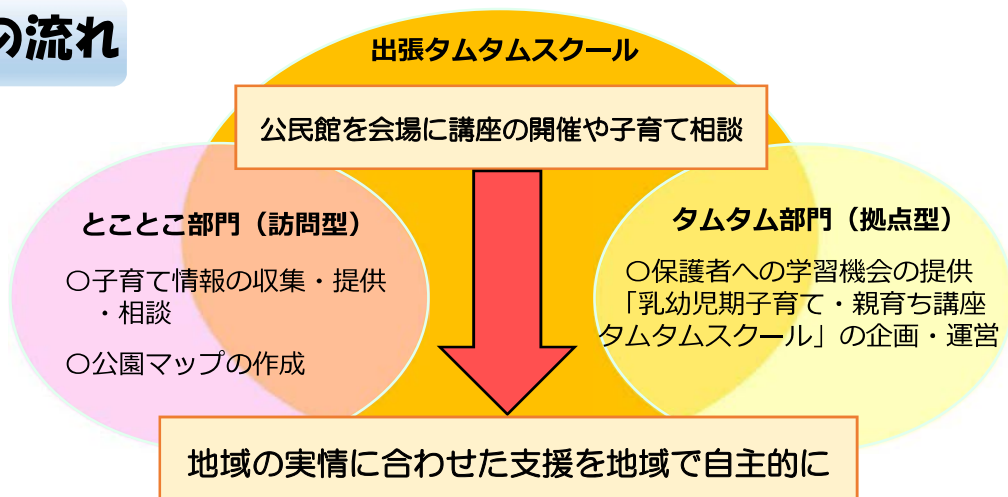
活動の対象

◇未就園児とその保護者

活動場所

◇社会教育施設、福祉施設、公園など

活動の流れ



乳幼児子育て・親育ち講座

タムタムスクール

子育ての早い段階から人と人とのつながりを構築し、子育ての悩み・不安の軽減を図ることを目的として、例年前期（5～7月）、後期（9月～11月）で各5講座年間10講座程度、乳幼児期の子の親が子育ての知識、技術及びび心を学ぶことのできる講座を開催しています。



手をかけ、目をかけ、心をかけ
ことばを添えて

コロナ禍で
の新しい取
り組み！！



ワクワク親子deダンス（動画配信）

☆動画はこちらから→
（米子市のホームページが開きます）



地域で子育て支援に携わる方や保健福祉部局職員、現役保育士や小児科医といった、子育てを中心とした各関係機関等に講師を依頼することで、多方面からの子育て支援が可能となっています。座学がメインの講座では、タムタムスクールの主旨にご賛同いただいた地域の方に託児スタッフとして参加いただき、参加者が講座を受講する間お子さんの託児を1対1で行っています。

とことこチーム

公園マップの作成及び配布 地域の子育て支援拠点での支援活動

平成22年7月に、米子市家庭教育支援チーム「とことこ」カレンダー＆応援ブック（初版）を発行し、その後必要に応じて改訂版の発行を行っています。また、平成27年から2年間かけて米子市内の全公園調査を行い、公園マップを作成及び配布しました。米子市内、西部地区内子育て支援センター、子育てサークル（公民館）、米子市児童文化センター等を訪問し、利用者に対して子育てに関する情報収集や提供、相談や遊びの支援を行っています。



子育てサークル支援活動



公園マップ・リーフレット

参加者の声

- ・コロナ禍で人と関わる機会が減ったので子どもの良い刺激になりました。自分にとっても子育ての良い息抜きになりました。
- ・気持ちに余裕のない子育てをしていたのでハッとしました。



成果と今後の展望

これまで活動を続けてきたことで、子育て世代に「米子市家庭教育支援チームとことこ・タムタム」が認知され、タムタムスクールには毎年300～400名の受講者が申し込まれています。また、とことこチームとしての活動では、各支援機関の情報を収集・提供することで、共通の「子ども観」を見出し米子市の子どもたちの健やかな育ちの支援に寄与しています。今後は、これまでの活動を継続していくとともに、さらに子育て世代に寄り添った支援の展開を目指しています。

すくすくハート

♡チーム・活動の紹介



早島町家庭教育支援チーム「すくすくハート」は、子育てに関する情報や学習機会の提供・相談体制の充実・家庭の孤立化の防止等を目的に、子育て支援に携わる地域の皆さんを中心として、平成30年に発足しました。学校園や行政、地域の方と連携しながら、チーム員が健診や地域・学校行事に参加し、保護者とふれあったり、学びの場を作ったりしています。2か月に1回程度の運営会議でメンバーが意見を出し合い、家庭教育支援の取組を考えています。

♡チーム・活動の体制

♡活動開始年月 2017年10月 ♡活動拠点 岡山県早島町

♡活動範囲 町内全域（人口約12,700人）

♡チームのメンバー 10人
（子育て支援センター職員、元幼稚園長、元民生児童委員協議会会長、愛育委員代表、健康福祉課母子保健コーディネーター、学校教育課職員、親育ち応援学習プログラムファシリテーター、学校運営協議会委員、子育て支援団体代表）

♡連携機関等 学校園、行政、子育て支援センターなど

♡活動の対象

♡乳幼児 ♡小学生 ♡中学生 の子どもがいる保護者・家庭に対する活動を実施

♡活動場所

- ♡保育所 ♡幼稚園
- ♡小学校 ♡中学校
- ♡社会教育施設
- ♡保健センター等 ♡家庭（訪問等）



♡おもな活動内容

♡♡♡活動拠点での相談対応♡♡♡

教育委員会主催のプレーパーク、健康福祉課主催の保育相談・健診・教室等にチーム員が補助として参加し、託児や保護者への声掛け等をしながら、相談を行います。



健診での声掛け

託児をしてくれるから、安心して参加できますね！

気軽に子育ての先輩に相談できるので心が安らぎます。



プレーパークでの交流

♡♡♡情報誌の作成・配布♡♡♡

子育ての行事や豆知識、絵本の紹介等、保護者が求めている情報を届けるために作成しています。チーム会議の中で内容を検討し、3か月に1回発行しています。



♡♡♡家庭訪問による支援♡♡♡

生後4か月以内の新生児がいる家庭にチーム員である母子保健コーディネーターが訪問し、体重測定や、母子保健サービス・予防接種の説明を行った後、チームの活動紹介をします。



『子育てサロン・遊び場一覧/子育てサポートカレンダー』



名刺



『すくすくハート』

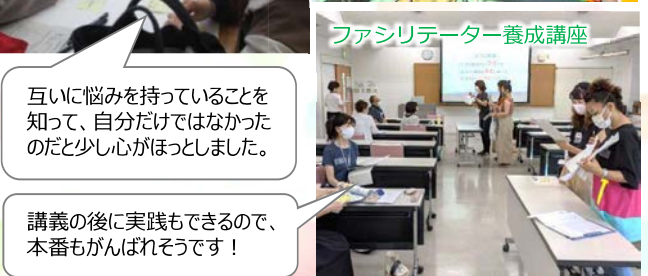
チームで作成した情報誌『すくすくハート』と、『子育てサロン・遊び場一覧/子育てサポートカレンダー』、名刺を配付しています。

♡♡♡「親プロ」を活用した研修会♡♡♡

学校園の保護者を対象に、「親育ち応援学習プログラム」を活用した学習会を毎年3~4回、学校園の参観日や就学前健診、入学説明会、PTA研修会等の中で実施することで、多くの保護者が交流しています。学習会の司会進行は、「ファシリテーター養成講座」を受講して育ったファシリテーターが務めています。



就学前健診や入学説明会での保護者同士の交流



ファシリテーター養成講座

互いに悩みを持っていることを知って、自分だけではなかったのだと少し心がほっとしました。

講義の後に実践もできるので、本番もがんばれそうです！

♡成果と今後の展望

チームの活動により、保護者がチーム員と顔なじみになるなど、保護者との関係づくりができました。また、学校園や健康福祉課を始め、様々な機関との連携が生まれ、町内の家庭教育に関する情報の収集や整理が進みました。今後は、チーム員の増員や活動種別や課題に応じた部会を組織する等、主体的で継続的な活動ができる体制を整備したいです。